

〔大和本草_{附錄}〕胡瓜 白アリ、黄アリ、白ハ味黄ニマサリ久ニ堪フ、臭アシカラズ、黄ヲ不植シテ
白ヲ可栽、

〔本朝食鑑_三〕_{蔬菜}胡瓜 木宇里_{曾波字里}、俗謂_{近代亦同}、

集解正二月下種、三月生苗引蔓葉如冬瓜亦有毛、四五月開黃花結瓜、圍二三寸、長者至尺許、青皮上多瘡癟如疣子、至老則黃赤色、其子與越瓜同、大抵爲蔬不佳、惟鹽糟漬藏作香物爲佳、京俗所謂祇園神社氏人食胡瓜必得祟、此社頭及神輿自古畫瓜紋故也、凡禁裏及神祇帷幕畫瓜紋者不少、此胡瓜橫截作圈之形也、予必大野未詳之、

〔和漢三才圖會_百〕_{蔬菜}胡瓜 黃瓜 唐音 和名曾波宇里、俗云黃瓜、

本綱漢張騫使西域得種、故名胡瓜、隋朝避諱改爲黃瓜、○中一種五月種者、霜時結瓜、白色而短、並生熟可食、兼蔬蓏之用、糟醬不及菜瓜、○中

祇園神禁入胡瓜於社地、土生人忌食之、八幡之鳥肉、御靈之鮓、春日之鹿食則爲被祟理不可推之類亦不少、蓋祇園社棟神輿以瓜_{音寡}之紋爲飾、瓜以爲胡瓜切片形而忌之乎、愚之甚者也、瓜紋乃木瓜果之花形、而織田信長公贊文也、信長再興當社、用其紋爲後記耳、

〔重修本草綱目啓蒙_{二十}〕_{蔬菜}胡瓜 ソバウリ_{和名抄} キウリ_{同上} ○

瓜ノ最早ク熟スル者ナリ、綠色ニシテ刺アリテ海參ノ肌ノ如シ、熟シテ黃色ナリ、故ニキウリト呼ブ、生食シ、或ハ鹽藏ス、和州ニハ熟シテ白色ナル者アリ、

〔東大寺要錄五〕年中節會支度_{寛平年中記}

一七月用 七日節供○中 貢_{德川} 胡瓜 一果_{代五合}

〔桃源遺事下〕一西山公○仰られ候は、黃瓜をば一名胡瓜といふ、又癩瓜といふ、此瓜甚穢多し、食して佛神へ參詣すべからず、又毒多して能少しいづれにしても植べからず、不可食との仰也、